

(検討会議事概要公表様式)

中部森林管理局「令和4年度 国有林の地域別の森林計画等検討会」概要

開催日時 及び場所	令和5年3月7日(火) 13:30~15:30 中部森林管理局大会議室ほか
委 員 (五十音順)	<p>伊藤 栄一 (森のなりわい研究所 代表理事・所長) 伊藤 光邦 (岐阜県素材生産流通協同組合 理事長) 太田 道人 (富山市科学博物館 学芸課植物担当専門官) 欠席 加々美 貴代 (やまぼうし自然学校 代表理事) 加藤 正吾 (岐阜大学応用生物科学部 准教授) 加藤 博俊 (設楽測量設計株式会社 代表取締役) 杉本 和也 (岐阜県立森林文化アカデミー 講師) 欠席 高田 幸生 (長野県森林組合連合会 代表理事専務) 前田 徹 (愛知県森林組合連合会 代表理事専務) 柳原 正紀 (富山県森林組合連合会 代表理事副会長・専務) 三木 敦朗 (信州大学農学部 助教) 山崎 真理子 (名古屋大学大学院生命農学研究科 教授)</p> <p>検討委員 12名 (うち出席 10名)</p>
議事内容	<p>○ 令和4年度に策定する地域管理経営計画書(案)及び国有林野施業実施計画書(案)について(森林計画区:伊那谷、木曾川、東三河)</p> <p>○ 令和4年度に変更する地域管理経営計画書(案)及び国有林野施業実施計画書(案)について(森林計画区:千曲川下流、千曲川上流、木曾谷、宮・庄川)</p> <p>○ 令和4年度に改正する地域管理経営計画書の別冊「管理経営の指針」(案)について</p> <p>○ 意見交換</p> <p>○ その他</p>
委員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・天然更新は、生物多様性の保全の観点からも非常に重要であることから、実績調査(更新判定調査)をしっかりと行った上で次期計画を立てることが重要と考える。 ・地球温暖化による森林生態系への影響が懸念されるが、計画書に記載のあるモニタリング調査については是非実施していただきたい。 ・生物多様性の保全に関するモニタリングを行っている他省庁とも連携・情報共有することで、より良い成果を上げられるのではないかと考える。 ・国有林が持つ公開可能なデータについて、どのようなデータが存在するのかわかりやすく、適切な方法で申請すれば閲覧できる仕組みができれば望ましいと考える。 ・(人工林の齢級構成について)現在11~13齢級が多くを占めており、今後さらに齢級が上がると、大径木の生産が多くなると思われるが、今後の大径木の需要動向等が懸念される。 ・人工林の齢級構成については、20~30年後にどう変化するかシミュレーションを示していただきたい。20~30年後に伐採できる箇所があるのかを危惧している。 また、齢級構成においては、伐採が容易な林分と困難な林分が混ざって表現されているが、それぞれを分けた場合の状況を確認したい。

- ・これからは針葉樹のみならず、広葉樹も必要な伐採はすべきと考える。
- ・将来の齢級構成のシミュレーションについては、計画されている伐採面積と更新面積から示すことは可能であると思われるので、検討をお願いしたい。
- ・木曾五木複層伐施業群については、それぞれ樹種の性質が異なるが、該当する樹種全てに適用可能な施業方法なのか。
- ・国有林の役割を考えると、時代のニーズに合わせつつも、揺るがない部分を持ち守るべきところは守っていくという基本的な姿を示していただきたい。
- ・エコツーリズムや環境教育のフィールドは、自然度の高い国有林に期待することになるため、地域との連携をお願いしたい。また、中部局と他局に跨がるような地域においては、森林管理局間の調整などが必要であることから、連携をお願いする。
- ・モニタリング調査においては、地域の精通者の協力を得ることで、多くのデータが収集できると思うので、そのような体制づくりが必要と考える。
- ・パブリックコメントにおいて、一般の方からの意見がないことについては、専門性が高く意見を述べにくいことが考えられることから、計画の示し方も含め、工夫が必要である。
- ・森林環境教育の推進や国民参加の森林づくりについては、NPO等の課題として、高齢化により活動の継続が難しい団体が増えている状況にある。フィールドの提供に加えて、若い人が関われるきっかけになるような情報提供があればありがたい。
- ・木材の利用拡大にあたっては、特に、中間需要ではなく、最終製品の需要の喚起が特に重要になってくる。国有林もこれを意識して、施策の構築・実施において最終需要の喚起に力を入れていただきたい。
- ・少子高齢化により、伐る木があってもそれを伐採する人がいない状況になりかねない。人材の確保と育成が重要であり、必要なサポートをしていただきたい。
- ・計画書には木材の安定供給という文言が使われているが、人材の面で必要な安定供給を維持できるのか危惧する。林業技術者の育成（人材づくり）が非常に重要である。

事務局：中部森林管理局 企画調整課・計画課